

## 【子ども支援と保育支援】 Part 2(後期)『保育における支援』

09 気になる子どもへの対応  
—主体的な活動に向けて—

申込締切

10/18



【担当講師】 阿部 崇 (子ども支援学部准教授)

|      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 講座日時 | 11月1日(土) 10:00~12:10 [60分]×2コマ (全1回) |
| 定員   | 30名                                  |
| 受講料  | 《一般》3,000円 《本学学生》1,500円              |
| 対象   | 幼稚園教諭・保育士・保育教諭等                      |
| 持ち物  | 筆記用具                                 |



## 講座概要

本講座では、保育場面で見られる「気になる子ども」をどのように捉え、どのように対応するのか、具体例を挙げながら概説します。また、特別支援教育の現場で実際に使用されている教材に触れていただき、教材を使用することにより「気になる子ども」が主体的に活動に取り組める工夫について説明を行います。講義を通して「気になる子ども」の生きづらさを今一度考えるきっかけになればと思っています。先生方が「気になる子ども」への理解を深め、よりよい支援ができるようになることを願っています。

## 講師プロフィール

筑波大学附属大塚特別支援学校(知的障害)に長らく勤務し、知的障害児教育における先導的教育モデルを目指した実践に取り組む。平成30年度より、東京家政大学子ども支援学部子ども支援学科及び、大学院児童学児童教育学専攻で教鞭をとる。障害のある子どもの教育や運動遊び、また障害者スポーツを専門に研究する。主な著書は、「特別支援教育時代の体育・スポーツ：動きを引き出す教材80(大修館書店)」、「21世紀スポーツ大事典(大修館書店)」、「発達が気になる子の運動遊び88(学研教育出版)」がある。

10 こどもまんなか社会への取り組み  
～こどもの視点を取り入れた子ども支援とは～

申込締切

10/31



【担当講師】 千葉 弘明 (子ども支援学部准教授)

|      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 講座日時 | 11月15日(土) 10:00~12:10 [60分]×2コマ (全1回) |
| 定員   | 30名                                   |
| 受講料  | 《一般》3,000円 《本学学生》1,500円               |
| 対象   | 幼稚園教諭・保育士・保育教諭等                       |
| 持ち物  | 筆記用具                                  |



## 講座概要

「こどもまんなか社会」を実現するために、こども家庭庁が創設され、こども基本法が制定されました。そして地方自治体などにおけるこどもや子育て家庭に関する施策においては「こどもの視点」を取り入れることが義務付けられています。本講座では「こどもまんなか社会」とは何か？なぜ「こどもの視点」が必要なのか？「こどもの権利擁護」とは何か？について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

## 講師プロフィール

保育士養成校の教員として20年あまりが経ちました。現在は東京家政大学子ども支援学部子ども支援学科に所属し、主に保育実習指導(施設)、子ども家庭福祉、社会的養護概論を担当しています。質の高い保育士養成を目指した効果的な施設実習の教授法、保育士における保育倫理の捉え方や倫理綱領の活用方法などを研究しています。これからの研究課題としてはチルドレンファースト(子ども最善の利益)を目指した施設支援について取り組みたいと思っています。

## 11 「気になる子ども」 ～子どもへの関わりと保護者対応・支援～

【担当講師】 福水 道郎 (子ども支援学部教授)

申込締切

11/15



|       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| 講座日時  | 11月29日(土) 10:00～12:10 【60分】×2コマ (全1回) |
| 定 員   | 30名                                   |
| 受講料   | 《一般》3,000円 《本学学生》1,500円               |
| 対 象   | 幼稚園教諭・保育士・保育教諭等                       |
| 持 ち 物 | 筆記用具                                  |



### 講座概要

近年、保育・教育現場では、「気になる子・特別な配慮を必要とする子」が増えており、個別的な対応・支援が必要とされています。集団活動に参加することが難しい子どもや、言葉で伝えることが難しく手が出てしまう子ども、気持ちのコントロールが難しく泣き叫んだり壁に頭を打ち付けたりする子ども、興味・関心の幅が狭く動き回る子どもなど多様な気になる子がいます。現役小児科医でもある講師が、発達相談や小児精神神経クリニックの診療経験も踏まえて、これらの子どもの背景を探り、加療・支援・保護者対応について考察・解説します。

### 講師プロフィール

東京医科歯科大学小児科、国立精神・神経医療研究センター小児神経科・小児睡眠専門外来・精神保健研究所睡眠覚醒障害研究部・Maine大学心理学科・東京都医学総合研究所で小児神経学・重症心身／発達障害児の臨床・研究に従事しました。現在、東京家政大学で学生の教育、瀬川記念小児神経学クリニック・やまだ子どもクリニック久米川で神経・発達外来をしており、様々な病態、障害をもつ小児において健康力を高める探究をしています。

## 12 保育における記録 ～意義と書き方の再確認～

【担当講師】 和田 明人 (子ども支援学部教授)

申込締切

11/21



|       |                                      |
|-------|--------------------------------------|
| 講座日時  | 12月6日(土) 10:00～12:10 【60分】×2コマ (全1回) |
| 定 員   | 30名                                  |
| 受講料   | 《一般》3,000円 《本学学生》1,500円              |
| 対 象   | 幼稚園教諭・保育士・保育教諭等                      |
| 持 ち 物 | 筆記用具                                 |

### (主任講師)



### 講座概要

手薄な体制で煩雑さに追われる毎日のなかでも、とりわけ手間のかかるのが記録…。忙しさと慌ただしさが続く保育において、記録は必須の業務とされています。なぜそれほどまでに記録は必要なのでしょう。業務省略化・ICT化も図られてきた今日、省略してもいいことと、大切にすべきことはどんなことでしょうか。そして、目的達成のためには、どのように書くのが適切なのでしょう。

本講座では、記録に関する本来的な意義を参加者の皆様と一緒に考え合いながら、保育の記録の書き方について細かなところまで確認し合っていきます。

### 講師プロフィール

初任から短期大学で14年間、前任の大学では17年間、現在は東京家政大学子ども支援学部教授として、これまで保育者養成教育に携わって参りました。

現在、高齢者介護施設を運営する社会福祉法人と、保育所を運営する社会福祉法人のそれぞれの理事長職を務めております。保育現場と保育者養成校の実働を協働にするための方略を模索中です。